

- [報告] 臨床推論ワークショップ
(徳田安春医師)・・・1～2面
- [報告] 全国医学生のつどいin横浜
・・・3面
- [報告] 大島FW・・・3面
- [連載] 研修医日記・・・4面

報告

臨床推論ワークショップ

「その頭でたたかえ!～燃えるフィジカルアセスメント～」

2016年1月9日(土)岡山大学にて臨床推論講演会 & 中四国臨床研修病院合同説明会が開催されました。医学生が42名、医師や職員を合わせると110名の参加がありました。

去年は広島大学で寺澤秀一先生に来ていただき、講演会 & 臨床研修病院合同説明会を行いました。その第2弾です。

来年度も行う予定です。楽しみに!呼んでほしい講師等ありましたら、学生担当者までお知らせください。



徳田 安春 医師

独立行政法人地域医療
機能推進機構本部
研修センター長

第1部

臨床推論ワークショップ

最初に、NHK「総合診療医ドクターG」でもおなじみの徳田安春先生による『その頭でたたかえ!燃えるフィジカルアセスメント』臨床推論ワークショップをしました。臨床推論ワークショップでは、徳田先生がまずは大まかに患者の状況を伝え、グループで患者に問診で聞きたいことを短時間で話し合い、手を挙げて次々と聞いていきました。その都度徳田先生が答え、それを受けて鑑別疾患を上げました。次に何の

検査の指示を出すのかなどグループで話し合い、その結果を聞いて確定診断を出しました。2つの症例について行いましたが、参加者の力を合わせ、2例とも正しい確定診断(ウェルニッケ脳症、筋強直性ジストロフィー)を下すことができました。

挙手して発言した参加者には、徳田先生から「いい質問ですね～」という言葉とともにお菓子がぼーんと投げられ、笑顔あふれる楽しいワークショップとなりました。(2面につづく)

【学生の感想】

- はじめてこのようなワークショップに参加させていただきましたが、飛び交う難しい言葉や皆さんの情熱に圧倒されながら楽しく参加することができました。(1年生)
- 身体所見だけでここまで診断がつけられることに改めて驚かれました。今後も同内容で続けていただければと思います。(4年生)
- 臨床推論は大学で学ぶ機会もあまり多くないので、この機会に考え方を学べてよかったです。ピンポイントで質問することが多かったのも、もっと幅広いところから絞っていく考え方を身につけたいです。(5年生)



第2部

研修医による研修報告



水本 潤希 医師

第2部では、中四国の民医連の臨床研修病院で研修する4人の医師から研修報告がありました。一番目は愛媛生協病院の1年目研修医の水本潤希Dr、二番目は3年目の鳥取生協病院の山崎彰Dr、三番目は4年目の岡山大学病院の原紘志Dr、最後に6年目の徳島健生病院の峯田和明Drが報告されました。ここでは1年目の水本Drと7年目の峯田Drの研修報告をご紹介します。

水本Drは、一週間前より全身の関節が痛くて動かせなくなった医療費が支払えない50歳代男性の症例を紹介し、日本の貧困の状況と総合的に患者さんを診ることの重要性を語られました。「ドクターGにはなれないなあ。神の手もちょっとキツそう……。けど患者さんに寄り添ってつらいことも悲しいことも決して目をそらさずに力になれる医師になりたい。」と締めくくりました。

峯田Drは初期研修を終えて感じることは「一番大切なことは、起きたことに対処できる能力ではなく、これから起きることが予測できる力」。後期研修2年目に外部研修で徳島大学に行き、右手にはメスを左手にはscienceをと学問の大切さを教わり、学会で国内17演題、海外でも4演題発表されたそうです。外部研修により、学問と連携の大切さを学んだとおっしゃっていました。「民医連は病院にいる患者さんをただ救うだけではない。病院から離れた後もHappyに」と締めくくりました。

その後、病院ごとのブースごとに分かれて医師や担当者から具体的にその病院の研修内容を聞き、質疑応答しました。

【お知らせ】

臨床推論が勉強になるとたいへん好評だったので、香川でも春から定期的に「臨床推論ワークショップ」を開催します。乞ご期待！



読者のページ

kimai.com

2015秋号の感想

2015中四つどいの報告が、楽しそうだし講演をぜひきいてみたいと思いました！次のつどいや実行委員会の集まりにも参加できたらと思います。

●高知大学1年

同封している返信ハガキにて感想・ご意見いただけた方に図書カードをプレゼントしています！ぜひご協力ください(^ ^)

今回の研修医日記が研修の内容にほぼ触れていないけれども、すごく身近に感じられました。時々こうしたただの日常を書いてもらえるのもすごく面白いです。

●香川大学1年



報告 大島フィールドワークー香川の離島医療学習 Vol.3ー

2015年医療系学生通年学習企画として離島医療フィールドワークを開催しています。その第三弾大島FWを11月25日(日)に実施し、医療系学生が5人参加しました。

大島は、これまでの直島や豊島などの離島とは状況が全く違います。島の大部分を国立ハンセン病療養所(大島青松園)の施設が占めています。島民も施設入所者や関係者の115人(H22年)で構成されていて、ハンセン病の歴史を深く残した島です。今回のFWは、「ハンセン病問題を考える市民の会」主催の大島臨海学校に参加し、大島の現状やハンセン病の歴史について学びました。

差別と隔離政策

ハンセン病は、らい菌に感染することで手足などの末梢神経が麻痺し、皮膚に様々な病的な変化がおこる。1931年にらい予防法が制定され、患者は強制的に療養所へ強制隔離された。1941年に特效薬が開発され、治る病気だと判明した後も隔離政策は継続された。らい菌は感染力が非常に弱いものの、病気に対する偏見と誤解が拭えないまま、施設職員でさえ「病気がうつる」と恐れていた。1996年になってようやくらい予防法が廃止され、国民の理解も広まっていった。

臨海学校の内容は、大島青松園の中を散策したり、入所者の方との交流の場がありました。

ハンセン病というだけで差別されてきた歴史から学んだことは、ハンセン病の他にも偏見差別をされている人たちがいまだいるのではという意識が芽生え、人権についての認識が深まったように思いました。

次回、第四弾は香川県で一番大きい島である小豆島へ3月27日(日)~28日(月)に行く予定です。医療系学生(入学前含む)の参加者募集中!



風の舞(亡くなった方の納骨後の残りの骨を納めるモニュメント)

報告 全国医学生をつとめ [医師って何者だ? 医師として働くということ]

2015年12月19日(土)~20日(日)に、民医連の医療と研修を考える医学生をつとめが横浜で開催されました。学習テーマは、医師を目指している医学生にとって原点にかえて将来の自分を考えるテーマだけに、全国から100名を超える医学生が集まりました。

医師の使命とは——

QOL=生活の質。人間らしく満足して生活しているかを評価する概念

1日目は、メイン学習講演「医師の使命について」を和田浄史医師(川崎協同病院)が講演されました。医師3000人の約半数以上が、最も好きな医療漫画に挙げたブラック・ジャックが発信するメッセージを機軸に、日々の診療に従事する中でたどり着いた、先生なりの「医師の使命」について語っていただきました。繰り返し強調されていたのは、「**患者さんのQOLを考える**」ことです。医学的に正しい

ことでも、患者さんのHappyや満足に繋がらなければ意味がないと伝えていました。そして、「医師の使命」という普遍的なものをベースに、理想の医師像を考え続けてほしい、とメッセージを残してくれました。

講演後にはグループディスカッション・夕食交流会を通して、学生同士医師像について語り合い、2日目は、1-4年生と5-6年生に分かれて学年別企画を行ないました。



次回は...

3/24(木)~26(土)
宮城県松島
テーマ「震災」

参加者募集してます♪

第36回 研修医 日記

本連載では、研修医に
日々の研修模様を
語ってもらいます。

こんにちは(^_^)高松平和病院初期研修1年目の植本真由です。これを書いている今日は1月半ばで昨日なんかはこの冬初めての雪が降りました❄

受験生の方などはくれぐれも体調を崩さないようにしてください。2015年12月は冬の小児科を回り、2016年1月からは倉敷にある水島協同病院にて外科研修が始まりました。KIMAIの感想に、「研修医日記なのに全く研修について書いていない(笑)」と書かれていたの、今日は私の研修について少し書きたいと思います。

冬の小児科

高松平和病院の小児科研修では、入院患者さんを3階の整形・小児科病棟で持ち、外来の研修を平和病院の隣の隣にあるへいわこどもクリニックで行います。午前中は入院患者さんの回診があります。患者さんは多い時で10人いないぐらい。私の研修中はRSウイルス感染症とマイコプラズマ肺炎がとにかく流行っていて、小児ベッドはほぼその患者さんで埋め尽くされていました。朝指導医と一緒にカルテチェックをし、採血をし、診察をしに行き、採血結果ができればそれを伝えに行き、退院可能な子は退院として、退院処理をします。朝からてんやわんやするのは採血です。小児の採血はほぼ100%泣かれます。泣くだけならまだ良い方で、ものすごく暴れる子も中にはいます。看護師さんが動かないように腕をしっかり押さえてくれており(動くとも危ないためここはとっても重要なのです)、ベテラン先生が細い細い血管に上手に針先を当てて採血します。肘部の血管などは皮膚の上からぶにぶにと触れることが出来るのですが、もうとってもとっても細くて、



高松平和病院
一年目研修医
植本 真由 医師
(旧姓塚本) 香川大学2015年卒
滋賀県出身

上級医「ここ触ってみ。(血管)あるやろ?」私「(触ってみる)…んー???」という会話が研修中何度も交わされました。そんな私もなんとかかんとか何度か採血を経験させてもらい、2年目の夏の小児科を回る時にはもっとスマートに採血できるようにとイメトレに励んでいます。

へいわこどもクリニックは平和病院より新しく建てられ、綺麗なクリニックに少しテンション高に研修ができます。朝一の朝礼に出て、午後は健診や外来でワクチンの接種をしたり、患者さんの問診・身体診察をして、隣の指導医にフィードバックしてもらいます。クリニックの朝礼では気になる患者さんを挙げる時間というのがあります。発達障害を疑わせるような行動をとるお子さんや、未払いがあるなど貧困が疑われる親子、お子さんへの当たりがとてきつい親御さんなどなど、クリニックとしてどのように介入していくかを話し合います。診察室でお子さんをひっぱたいたお母さんに対して、「子どもさんはもちろんかわいそうやけど、次受診かなんかで来た時は、まずお母さんを労ってあげることが必要ちゃうかな」という話になったのはとても印象的でした。子どもも大人も、クリニックを受診して何か良い方向に変わっていくきっかけになれば良いなと感じました。

Information

奨学生募集中

対象者：医学部医学科に在籍の方

貸与額：5万円～12万円

※返済免除規定あり

お問合せ 連絡先 いつでも どこでも 誰もが安心してかけられる医療を

民医連 香川民主医療機関連合会

〒760-0073 高松市栗林町1-6-4 学生担当：小池、中田、野口

TEL:087-836-9375 FAX:087-836-9376 メール:heiwhp@gmail.com



香川医療生活協同組合

厚生労働省
臨床研修指定病院

高松平和病院

高松市栗林町1-4-1 TEL 087-833-8113



Facebook 医学生担当香川民医連

香川民医連 医学生のページ

